

年 組 名前:

問1 甲府市中心部に

銭湯「都温泉」があります。

昭和50年代半ばには、

どのようなお客さんで

にぎわっていましたか。

.....
.....
.....
.....

問2 3代目の長田さんは、

なにをすることが、

お客さんとの絆になると、

話していますか。

.....
.....
.....
.....

の問屋街に住み込みで働く従業員や、お座敷に出る芸者衆らでにぎわっていたという。
「こちんまり」とした今の建物は、20年余りに建て替えたもの。泉質は単純温泉で、気泡風呂を備える。玄関には七夕、クリスマス、正月、ひな祭りなど、季節ごとに飾りを用意して利用



甲府市中心部に近い都温泉（同市中央5丁目）は、3代目の長田安夫さん（75）が温かなおしゃべりで利用者をもてなしている。
創業以来、現任地で営み、長田さんが携わるようになったのは昭和50年代半ば。当時は近く

都温泉（中央5丁目）



柔らかな日が差し込む浴室

者を迎えている。
番台に座る長田さんは、利用者に「名物おやじ」とも呼ばれる「二期一会」と題したノート

れ慕われている。大切にしているのは、利用者との交流だ。
「二期一会」と題したノート

を用意。利用者に名前や住所を
書いてもらい、年賀状を送っている。返事が来た人には毎年送付して、交流を続けている。
シャワーを貸した人には「ラーメン3杯で返してね」と冗談を言ったり「子どもにはじやんげんで勝ったらシューズをあげる」などと声をかけたり。「どういふことがお客さんとの

「名物おやじ」が出迎え



長田安夫さんが営む都温泉。ベソソチで長田さんが利用者とお話をしている様子も甲府市中央5丁目

- ・甲府市中央5の7の19
- ・電話055(233)3858
- ・午後2～8時半。土曜定休



絆になる」と長田さん。「近所の人に気持ち良く使ってもらい、いちげんさんには楽しんで笑って帰ってもらえるようにしていきたい」と話す。
〈杉原みずき〉

(2023年11月22日付 山梨日日新聞14面)

問3 都温泉には、「一期一会」と題したノートがあります。読み方と、その意味を教えてください。

読み方:

意味: